明治大学大学院教養デザイン研究科
映像資料活用による学際的アプローチの醸成プログラム

『細毛家の宇宙』

(監督: 毛晨雨／マオ・チェンユ、中国／2009／76分)

中国は今でも、人口の半分以上は農村で暮らしている。外国人にとっても、都市部中国人にとっても決して馴染みの深い世界ではない。人民共和国の成立にとって重要な母体でもあったはずの農村部は、慢性的な貧困と周期的な再編に翻弄されながら、しかし自分たちが生き延びるため、さらに「做人(人間らしく生きる)」ため自らの習慣を守って来た。

作品紹介:
監督の出身地、湖南省岳陽にある細毛家は、11家族20人あまりで形成される村。監督は、共同体の一員、そして映像作家として、過去の遺物、今を生きる人々、未来の歴史をつないでいくという考古学的記録作業に積極的に介入し、消え去ったものをも再現していく。ここにある人々の日常、神話や伝承に受け継がれる世界観を引用しながら、その新しい解釈を試みようとする壮大な実験民俗誌ドキュメンタリーである。
(「山形国際ドキュメンタリー映画祭」より)

(監督の言葉)
私の仕事場は、ずっと水田地帯だった。ドキュメンタリー映画を撮り始めたころ、ある日本人監督が稲を撮るために、数年間田植えをし、稲を育てたことをインターネットで知った。稲を介して語り、長い時間をかけて撮影された彼の作品は、日本の農村社会を描いた風土絵巻だ。彼の名は小川紳介。小川氏がおこなってきた活動は私に真摯に教えてくれる。映画制作の目的と意義は未知なる宇宙に存在し、創作し生きようとする建設的意欲は、その宇宙に蓄えられているのかもしれないと。

監督：毛晨雨／マオ・チェンユ
(湖南省生まれ。上海の同済大学で工学を専攻、2000年卒業。その後は人類学的な映画の制作に従事。主な作品は、ドキュメンタリー映画『Soul Mountain』(2004)、『Human, Ghost, God』(2005)、『A Story of Zeng Wuhua』(2006)、『The Tale of Making a Vow』(2008)、『The Tale of Zhenyuan County』(2008)、劇映画『Da Jiang Meeting a Ghost』(2007)、『The Tale of Two Sisters』(2007)など)

日時：６月２１日（金）１４：４０～１７：５０

会場：和泉キャンパス　第一校舎４０７教室(４階)

講師：佐藤　賢氏

講師紹介：佐藤　賢氏（立教大学心理学部講師・中国ドキュメンタリー映画研究家）
中国における独立的な表現活動は、人的ネットワークに支えられていることが多く、インディペンデント・ドキュメンタリー映画制作の背景にはシネクラブ運動の存在が指摘できます。そうした映画を見る運動に注目しながら、映画、そして中国を「見る」ことの難しさと可能性について考えます。(参考文献:「中国ドキュメンタリー“運動”」『現代思想(総特集:ドキュメンタリー)』青土社、2007 10月臨時増刊 vol.35-13)

コーディネーター:丸川哲史　政治経済学部教授

予約不要：学部生の受講可

学外の方も受講可能です。事前にお電話ください。
教養デザイン研究科：TEL 03-5300-1529